

同窓会レポート

北海道科学大学保健医療学部理学療法学科

春名 弘一

私は北都保健福祉専門学校理学療法学科の2期生として卒業し、2000年に理学療法士になりました。あれから四半世紀が過ぎましたが、この度、理学療法学科2期生と作業療法学科1期生の同期十数名で、2026年8月1日に一泊二日の同窓会を開催しました。

会場に選んだのは、なんと母校のキャンパスです。理事長先生のご厚意で校舎をお借りすることができ、当時と変わらぬ教室で再会できたことは、何より感慨深いものでした。懐かしい階段教室の椅子に腰かけていると、実習やテストに追われた学生時代の記憶が一気によみがえり、あっという間に時間が過ぎていきました。校舎正面で撮った集合写真は、卒業アルバムの1枚と重なって見え、思わず胸が熱くなりました。

夜は校内でのバーベキューも企画され、美味しい料理を囲みながら、卒業後それぞれが歩んできた道を語り合いました。臨床の第一線で活躍する仲間、教育や研究、管理職として組織を支える仲間もあり、25年間それぞれの場所で奮闘してきたことを知り、誇らしい気持ちになりました。私は現在、大学教員として臨床現場を離れてしまいましたが、久しぶりに現場の生の声を聞ける貴重な時間となり、多くの刺激をもらいました。

語らいの中では、母校の設立に力を尽くされた初代理事長・稲積文子先生と、平成8年に第2代校長に就任された小野一幸先生（旭川医科大学名誉教授）のお話にもなりました。お二人が、この学び舎を一から築き上げてくださらなければ、今の私たちはここにいなかったのだという話になり、同期一同、しみじみと胸に迫るものがありました。お二人とも今は亡き恩人ですが、あらためて心からの感謝と哀悼の意を捧げたいと思います。

翌朝、みんなで片付けをしながら「次はいつ集まるのか」と早くも次回の話で盛り上がったのも、良い同期に恵まれた証だと感じています。ブランクがあっても、顔を合わせれば学生時代そのままの空気に戻れるのが同期のありがたさだと改めて感じました。母校という特別な場所で再会できたことに、心から感謝しています。

私は仕事柄、全国各地で講演や研修の機会をいただくことがありますが、「北都保健福祉専門学校のご出身なんですね」と声をかけていただくことが良くあります。その一言をいただくたびに、母校の名前を胸を張って名乗れることを、個人的にとっても嬉しく、また誇りに思っています。これからも卒業生の一人として、母校を盛り上げていく力になればと思っています。

最後に、在校生の皆さん、そして卒業して間もない若いOB・OGの皆さんへ。母校で培った学びと、そこで出会った仲間との絆は、この先の人生できっと大きな支えになります。胸を張って、それぞれの現場で活躍してください。校長先生をはじめ、今回の開催にご協力いただいた皆様に、あらためて御礼を申し上げます。次回の再会も、今から楽しみにしています。





OG・OB同窓会。A～D思い出の校舎や卒業後にできた校舎見学をしているところ。
E～I 焼肉パーティーで楽しんでいるところ。